

自立活動だより

紀北支援学校自立活動部
令和4年2月発行

今年度も残りわずかとなりました。今年度最後となる自立活動だよりでは、校内で実施した全職員のための自立活動に関する研修について紹介します。



本校は毎年教員の専門性の向上を目指し、外部から講師を招聘し本校の教員を対象に自立活動に関する研修を実施しています。今年度も新型コロナによる感染拡大状況を鑑み、教員が一同に集まって研修をする従来のやり方ではなく、講義を動画によって視聴し、その後教員同士でテーマに沿って話し合う研修を実施しました。その他自立活動部員が講師となり自立活動に関する研修、自立活動に関する教材展示会も実施しました。

●摂食指導研修 8月実施

テーマ：「食べる」について考える

講師：藤岡孝之氏 愛徳医療福祉センター言語聴覚士

【講義内容】

はじめに“口腔機能について”“摂食行動について”“摂食嚥下のシステムについて”“口腔の各部の解剖について”お話され、次に「食べる」ことの発達の経緯、そして、摂食嚥下障害の基礎的な知識を学ぶことは重要で、特に誤嚥については理解しておくこと。他に、食べることは身体の発達だけではなく認知発達、社会性の発達とも関連しているので、子どもの発達に合わせた目標と学習のための方法を考え、丁寧に対応し支援すること等、指導の上で大切にしてほしいことについてお話されました。



【研修後の先生方の声いろいろ】

○『摂食場面で気になる点は？』

噛まずに丸呑みしている、早食いや流し込んで、かきこんでいるという意見が圧倒的に多く、姿勢が悪い、むせる、口を閉じることができない、舌でつぶしている、偏食、こだわりが多い、食形態があわない？食具の使い方、時間がかかり時間配分の課題がある、という声も多数ありました。



○『指導で意識していることは？考えていることは？』

家庭との連携、卒業後の生活を見据えてきちんと食事マナーを伝えていくことについて。(高等部)

介助する際声かけしながらコミュニケーションをとるようにしている、無理強いをしない。

ゆっくりと食べるように声かけしている。茶碗やスプーンの改良について。(中学部)

自立活動で口腔機能の訓練的なことに取り組み、少しずつ成果が現れ言葉も出るようになってきた。(小学部)

そして、このご時世こんな意見も・・・

コロナ禍で対面で食べられない。課題が多すぎるので日々目標を決めて指導していきたい。(中学部)



最後に

『自立活動とは子どもが日常生活や学習場面で困っていることを改善・克服するための学習です』

私たち教員は子どもたちの将来像を考えながら、研修や研鑽を積み学んだことを児童・生徒に還元できように取り組んでいきたいと考えます。来年度こそ、少しでも従来の形の研修ができることを願って・・・



●自立活動研修 10月実施

テーマ：『自立活動の基本的理解』 児童生徒が身につけた「学習上又は生活上の困難さを軽減する」ための知識、技能、態度及び習慣をいかに汎化させるか

講師：武田鉄郎氏 和歌山大学大学院教育学研究科

【講義内容】

武田先生から

『テーマである汎化とは、学習によって習得したことが、その具体的対象を離れ、法則となって定着すること、学習の転移のときの重要な条件の一つとされるとあります。自立活動の指導は、汎化のよい機会として捉え、教師は自立活動の時間における指導で児童生徒に培った力を、すなわち「学習上又は生活上の困難さを軽減する」ための知識、技能、態度及び習慣をいかに汎化させるか」という視点を持ち、指導に臨むことが大切であります。実際の指導にあたっては、児童生徒の自尊感情を高める、安全で安心感のある環境を設定する、関係性を構築していくことを大切にしていきたいと思います』

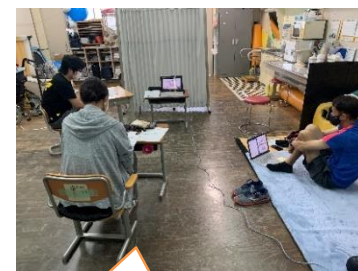


【話し合い】

動画視聴後は、実際クラスで汎化の視点でどういう取組をしているか、自立活動の指導をしている中で難しいと思うことはどんなことか等を話し合い、日頃の自立活動の指導について振り返る時間をもちました。

【研修後の先生方の声いろいろ】ほんの一部です

- ・自立活動の時間の指導では理解できたり、客観的に考えたり、落ち着いて答えたりすることが多いが、日常生活において同じようなことが起きたときにコントロールが難しい。汎化につなげることが難しいなど感じます
- ・子どもの将来像を見据え、汎化につながる自立活動の実践を考える機会になりました。生徒の実態把握を十分にいき、それに即した目標を立てるよう心がけたいと思いました。教師との関係性、小集団での関係性に注目し、安心できる環境かどうかや、汎化につなげる際は様々な環境設定が大切だと思いました。
- ・ここ数年「安心・安全な〇〇」と聞くことが多くなったが不応状態の子どもにも安全・安心感の確保が自尊感情を高めるベースであり、汎化につながるものだという事を再認識しました。(高等部)
- ・学習環境を子どもに優しく、わかりやすいものにする事で、活動の制限と参加の制約が緩和され、わかることが増え、自己肯定感がアップするという事。そのためには、子どもがいて、指導仮説を立て、活動を組んでいく手続きが必要とありました。子どもの実態ありきで、様々な指導、支援を考えていくことを忘れないようにします。(中学部)
- ・子どもが学習に対して不安があったり、不応状態にある場合は目標となる知識・技能の習得の前に安心感の確保や関係性作りを積み重ねることが重要な意味を持つことを示していただき、自立活動を行うときの姿勢を確認することができました。(小学部)



リモートで動画視聴するこの形態も
当たり前の風景になってきましたね